

与板鍛冶体験工房がオープン

伝統の技を体験



与板地域の伝統工芸品である与板打刃物の技を広く発信しようと6月24日、「与板鍛冶体験工房」(与板町東与板)がオープンした。「与板鍛冶家」(川野稔代表)が長岡市と連携して職人の工房を改装し、開設した。初日には県内外から5人の若者が訪れ、職人から指導を受けながら切り出し製作に挑戦していた。

川野代表は「鍛冶の体験をすることで、与板の打刃物のよさを知って、後を継ぐ職人が増えてくれればうれしい。最初からうまくはいかないと思うが、教え方を統一するなどして、1人でも多くの

人に鍛冶の面白さを知ってもらいたい」と、今後に期待を込めていた。400年の歴史を持つ与板打刃物は、戦国時

代に上杉謙信(1530〜1578)の家臣として同地域を治めた直江兼綱(なおえさね)が刀鍛師を連れて来たのを始まりとする。すでに400年あまりの長い歴史を築き、与板の伝統産業になっている。

江戸時代に信濃川を利用して栄えた与板は、流通の拠点だった。与板商人の手で打刃物も全国に普及。特にのみの切れ味のよさは高い評価を受けてきた。

現在も「かな」のみ「ちよつな」「まさかり」を製造し、ちよつなは約9割、まさかりは約8割の国内シェアを持つ。

1986年には経済産業大臣指定の伝統的工芸品の指定を受けた。

与板打刃物の歴史などについて説明を受ける参加者ら

だが、職人の減少が続いており、人数は最盛期の9分の1ほどにまで減っている。後継者不足も喫緊の課題になっている。

このため、「越後与板打刃物匠会」「越後与板打刃物組合」「村のかじや」の3団体を中心に、同地域の鍛冶職人17人が「与板鍛冶家」を結成。伝統産業にかつを入れるべく、奮闘している。

職人の減少から体験工房の開設へ

同工房は2015年3月まで古見誠一さんが作

業所も、遺族の協力があつて活用に至ったこと関係者は感慨深げである。

与板町商工会長で碓氷刃物製作所の職人でもある碓氷淑郎さんは「体験工房も含めて、与板に来てよかったと思われようにしたい。それは私の力だけでは無理で、皆さんの力が必要となるので、ぜひともお願いしたい」と話す。

鍛冶体験には県内外か

ら5人が参加し、与板打刃物の歴史や制作工程を学んだ後、現役の職人の指導を受けながら鍛接や鍛造、整形などをして切り出しを制作した。参加者は真剣な面持ちで、金属を火の中に入れ機械で打ちつけて形を整えるなどしていた。

埼玉県から参加した福田麻衣さん(25)は「大學生の時に与板打刃物の見学などで訪れていました。体験工房ができるという話を聞いて来ましたが実際に体験すると、炎の熱さや機械の衝撃とかが想像以上でした。機械を自在に操る職人の姿を改めてすごいと感じました」と話している。

同工房は毎月2回、土曜日が開かれる。問い合わせは同工房事務局(☎070-4474-7490)へ。



職人の指導を受けながらの鍛冶体験